

## 広島・岡山の 113/115 系 ～東海型さいごの砦は今～

マスカット

### 1、はじめに

1年では高崎の 115 系、2年では千葉の 113 系を運用面から考察してきた部誌も今年で最後となりました。113/115 系の状況は依然として予断を許さず、昨年記した幕張車両区の 113 系にいたっては運用に入ることが出来る編成が2セット(4両4編成)となり、6連は絶滅するような現状です。個人的趣味で 113/115 系を取り上げてきたこの部誌ですが、今となってはこれまで2年間の記録も当時の様子を表したとても貴重な資料となっています。そこで、今年も引き続き 113/115 系を取り上げることとしました。今年も、まだまだ多くの同系車両が残り、113/115 系の「最後の砦」となるであろう広島・岡山地区についてピックアップします。今までは、本線運用から退き群馬ローカルでの運用を全うする高崎地区や運用縮小続きの房総地区など既に末期状態に等しかった場所を紹介していましたが、まだまだ本線の主役として活躍する 113/115 系の姿を最後にご覧いただきたいと思います。

### 2、広島地区

広島地区では、下関地域鉄道部の 115 系(O、C、G、H、N 編成)178 両、広島運転所の 115 系(L 編成)88 両、113 系(F 編成)68 両が活躍している。山陽本線下関～三石、呉線、可部線で使われ、最長 8 両の編成を組む。C、H、O、G 編成が共通運用であり、N 編成・L 編成・F 編成はそれぞれ独立した運用である。113/115 系以外にも呉線では 103 系(D 編成)が、可部線では 105 系(K 編成)が走っており、これらの代走をすることもある。特に D 編成は 3 運用に対して 3 編成しか所属していないため、故障や入場の度に F 編成による代走が行われている。

#### 2-1、広島地区 115 系

##### ・L 編成(全車3ドア・4両編成) 広島更新色・西日本中国地域色

L 編成は広島運転所に 22 本所属している。このほとんどが全車 2000 番台で組成されており、編成中に 40N と 30N がほぼ混在していないため、とてもきれいに揃った編成を見ることができる。L 編成の中で注目すべきは L15、L16 編成だ。両編成は多くが 2000 番台で組成される L 編成において、唯一全車が 1000 番台で組成されている編成である。残念ながらともに中国地域色になってしまったものの、貴重なその姿は今でも存分に楽しむことができる。また、L17 編成は下関方先頭車のみ 1000 番台で残りの 3 両は 2000 番台という特徴を持っている。こちらは 2011 年 7 月現在広島更新色を保っている。なお、L20 編成のみ両先頭車に付いている編成札の「L」の字が青色である。特に深い意味はないと思われるが、これは広島・岡山地区唯一の仕様である。L 編成は広島地区で最も整備されている 115 系であると言えるだろう。

☆L15 ←下関 Tc115-1072 + M'114-1120 + M115-1057 + Tc115-1119 岡山→

☆L16 ←下関 Tc115-1080 + M'114-1203 + M115-1119 + Tc115-1155 岡山→

☆L17 ←下関 Tc115-1081 + M'114-2023 + M115-2023 + Tc115-2115 岡山→

☆L20 ←下関 Tc115-2016 + M'114-2017 + M115-2017 + Tc115-2112 岡山→



↑ 115 系 L1



↑ 115 系 L6



↑ 115 系 L7



↑ 115 系 L15



↑ 115 系 L17



↑ 115 系 L20

・N 編成(全車2ドア・4両編成) 広島更新色・西日本中国地域色

N 編成は下関地域鉄道部に 19 本所属している。N 編成は 3000/3500 番台で、115 系の足回りに 117 系の車体をかぶせた形であるが、前面は 115 系のものが移されているので顔を見ただけでは判断はつけられない。車体を 117 系から移植したため 4 両とも 2 つドア。広島の混雑する朝ラッシュにおいてドアの少なさは乗り降りの時間に影響し、朝の 1528M(柳井 556-724 広島 729-806 西条)が N 編成 8 両で運転される折には、廿日市や新井口で遅延がどんどん増大し広島に 5 分程度遅延して到着することもしばしばである。大きな特徴のある編成は特になく、強いて言うならば、岡山支社・広島支社の中で中国地域色一番乗りを果たした N5 編成だろうか…

☆N5 Tc115-3005 + M'114-3005 + M115-3005 + Tc115-3105 岡山→



↑ 115 系 N1



↑ 115 系 N5



↑ 115 系 N9



↑ 115 系 N14



↑ 115 系 N19



↑ 115 系 N20

・C/H/O/G 編成(全車3ドア・4両編成) 瀬戸内色・広島更新色・西日本中国地域色

下関地域鉄道部に C 編成 17 本、H 編成 1 本、O 編成 4 本、G 編成 3 本が所属している。主に C 編成の瀬戸内色編成は 300 番台で、広島更新色編成は 2000 番台で構成されている。現存するほとんどの瀬戸内色が 115 系 C 編成であるものの、地域色化が進んでいるため瀬戸内色絶滅はそう遠くはなさそうだ。C13 編成、C18 編成、C42 編成、C43 編成の下関寄り先頭車は現存する全国の 115 系の中でも車歴がかなり古く、クーラーも標準とは異なるものが残っている。C42 編成の下関寄り先頭車(Tc115-652)は現役最古参の 115 系である。C43 編成の先頭車は金属窓抑えになっている。G1、G2、C43、H1 編成はデカ目の台座を残したままシールドビームを搭載した、独特の形状となっている。G2 編成の下関方先頭車(Tc115-622)は 40N と同じ張上げ屋根になっているが、車内は 40N どころかリニューアル自体が未施工であるため昔懐かしいセミクロスシートが残っている。そのため、見た目に惑わされると乗車した際に辛い思いをする羽目になる。G3 編成は下関方先頭車(Tc115-607)が 115 系最後の鋼製塗りドア車であり、岡山方先頭車(Tc111-91)はクハ 111 の現役最古参である、非常に興味深い編成である。なお、G 編成は岡山寄り先頭車がクハ 111、H 編成は両先頭車がクハ 111 という点で分類されている。O 編成は以前は先頭車が 2 ドア(3000 番台)という分類だったが、O2・O3 編成の下関方、O3 編成の岡山方と 4 編成の両先頭車が 1000 番台であるため厳密な分類が出来なくなってしまった。H01 編成は、両先頭車が現役唯一の 115 系 800 番台で、ともにクーラーは WAU102 型という珍車。原型ライト(大目玉)の台座をそのままにシールドビーム化した最初の編成でもある。H01 編成はずっと瀬戸内色であったが、9 月下旬に入場が予定されており(2011 年 9 月 12 日現在)、何色で出場するのか注目される。C/G/O/H 編成のクハには 111/113 系先頭車及び中間車からの改造車が多く、趣味的興味は尽きない。

☆C42 ←下関 Tc115-652 + M'114-1124 + M115-1061 + Tc115-199 岡山→

☆C43 ←下関 Tc115-604 + M'114-1095 + M115-1034 + Tc115-1108 岡山→

☆G02 ←下関 Tc115-622 + M'114-320 + M115-320 + Tc111-139 岡山→

☆G03 ←下関 Tc115-607 + M'114-1193 + M115-1109 + Tc111-91 岡山→

☆H01 ←下関 Tc111-812 + M'114-1172 + M115-1100 + Tc111-811 岡山→



↑ 115 系 C13



↑ 115 系 C18



↑ 115 系 C35



↑ 115 系 C36



↑ 115 系 C42



↑ 115 系 G2

## 2-2、広島地区 113 系

### ・F 編成(全車3ドア・4両編成) 湘南色・瀬戸内色・広島更新色・西日本リニュー標準色

広島運転所に 17 編成が所属している。このうち、5 編成が湘南色、3 編成が瀬戸内色、8 編成が広島更新色、1 編成が西日本リニュー標準色(カフェオレ色)である。全編成金属窓抑えであり、湘南色・瀬戸内色は体質改善工事未施工。F15 編成を除く 16 編成が京都からの転属車で、F15 編成は日根野からの転属車である。2008 年 7 月より、2 年間をかけて老朽化した広島 103 系 B・E 編成を 113 系 17 編成で置き換えた。よって、国鉄型車両のイメージが強い広島地区ではあるが、113 系の歴史はまだ 3 年と非常に浅く、全 68 両と京都よりも少ないのが現状である。また、京都から広島に転属する際、湖西線に対応するため施された高速化改造(+5000 番台)が解除され、車番の一番上の桁「5」が上から塗りつぶされた(F01を除く)。更新色のうち F3、F7、F8、F10、F13 編成は 凸(30N)+凹(40N)+凹(40N)+凸(30N) という組成であり、「凸凹リニュー」と呼ばれることもある。湘南色の編成は、本来地域色になるべき幡生入場の際も湘南色のパッチワーク塗装で出場しているため側面の塗装が一部継ぎ接ぎになっている。地域色化は厳密には 8 年後完全終了しか決まっておらず、それまでに全検がもう一度あるのでその際に塗装を変更するか、それまでに廃車になるということであろう。



↑ 113 系 F1



↑ 113 系 F2



↑ 113 系 F8



↑ 113 系 F13



↑ 113 系 F15



↑ 113 系 F17

## 3、岡山地区

岡山地区では、岡山電車区の 115 系(A、K、D、G 編成) 173 両、京都総合運転所の 113 系(B 編成) 12 両が活躍している。115 系は山陽本線姫路～岩国、呉線、赤穂線、伯備線、宇野線、本四備讃線、土讃線、山陰本線で使用され、最長 8 両の編成を組む。それぞれが独立した運用であり、A 編成は広島・岩国に、D 編成は瀬戸大橋を渡って琴平に、G 編成は伯備線を経て山陰にも顔を出す。4 両編成の A 編成・K 編成はともに運用数に対しての編成数がギリギリのため、入場時などは D 編成・B 編成で代走が行われることがある。B 編成は京都総合車両所からの借り入れ車両である。岡山地区の車両には広島更新色は存在しない。

## 3-1、岡山地区 115 系

### ・A 編成(全車3ドア・4両編成) 湘南色・西日本中国地域色・西日本リニュー標準色

岡山電車区に A01～A04、A06、A07、A10、A12、A13 編成の 9 編成が所属している。4 両編成の綺麗な編成で、A01、A03、A10 編成が中国地域色、A13 編成が湘南色で他は西日本リニュー標準色(カフェオレ色)である。A13 編成のみリニュー標準色工事未施工であり、A02、A10(1 両だけ 30N)編成が 40N、他は 30N という陣容である。A13 のみ全車 115 系 300 番台で、他の編成は 115 系 1000 番台で組成されている。もう一つの 4 両編成である K 編成には湘南色がないため、4 両+3 両の 7 両が全て湘南色で揃う通称『湘南セブン』は殆ど見ることが出来なくなってしまった。なお、A 編成には欠番(A5、A8、A9、A11)があるが、これは中間車 1 両を減車した上でもう一方の中間車に運転台を設置し、D28～31 編成として D 編成に転出したためである。

☆A13 ←広島・三原 Tc115-326 + M'114-316 + M115-316 + Tc115-325 相生・姫路→



↑ 115 系 A01



↑ 115 系 A02



↑ 115 系 A03



↑ 115 系 A07



↑ 115 系 A12



↑ 115 系 A13

・K 編成(先頭車 3 ドア/中間車 2 ドア・4両編成) 西日本中国地域色・西日本リニユ標準色

岡山電車区に K01～K07 の 7 編成が所属している。先頭車が 115 系 1000 番台ないし 300 番台の 3 ドア車で、中間車は広島 N 編成と同様に 117 系の車体を 115 系の下回りに被せた 2 ドア車で組成。岡山でしか見ることができない組成である。K04、K07 編成が中国地域色で活躍中。以前は湘南色も存在したが、今は消滅してしまった。



↑ 115 系 K01    ↑ 115 系 K03    ↑ 115 系 K03    ↑ 115 系 K06    ↑ 115 系 K06    ↑ 115 系 K07

・D 編成(全車3ドア・3両編成) 湘南色・西日本中国地域色・西日本リニユ標準色

3 両編成の D 編成は岡山電車区に 31 本が所属している。D22～D27 編成が 115 系 300 番台で、他は全て 1000 番台で組成されており、D22・D24～D27 編成の全 5 編成はリニューアル工事未施工であり、湘南色を纏う。なお、D23 編成はリニューアル未施工にも関わらず中国地域色を纏う、特異な存在である。D28～D31 編成は A 編成からの転用であり、姫路方先頭車は中間車改造の車両であるため切妻に運転台を付けたような独特の顔つきをしている。琴平までの運用を持ち、瀬戸大橋を渡る姿を今でも見ることが出来る。

☆D23 ←三原・児島 Tc115-350 + M'114-330 + Tc115-302 岡山・姫路→



↑ 115 系 D04    ↑ 115 系 D05    ↑ 115 系 D11    ↑ 115 系 D12    ↑ 115 系 D22    ↑ 115 系 D24

・G 編成(全車3ドア・2両編成) 西日本中国地域色・西日本リニユ標準色

2 両編成の G 編成は岡山電車区に 8 編成が所属している。主に日中の伯備線で活躍しており、朝夕に岡山に入線する。G7 編成以外は W パンタで、米子方先頭車は中間改造先頭車である。なお、言うまでもないが下関地域鉄道部の 115 系 G 編成とはまったくの別物である。



↑ 115 系 G2    ↑ 115 系 G4    ↑ 115 系 G5    ↑ 115 系 G6    ↑ 115 系 G8    ↑ 115 系 G8

3-2、岡山地区 113 系

・B 編成(全車3ドア・4両編成) 湘南色

4 両編成の B 編成は京都総合運転所から 3 編成を借り入れのうえ岡山地区で使用している。B01 編成(京都 L13 編成)は先頭車が H ゴム支持の最後の 113 系湘南色であり、全国的に見ても非常に貴重な存在である。B05 編成(京都 L1 編成)は W パンタ車で、B02 編成(京都 C14 編成)は前面金属抑えでパンタグラフは 1 つである。B 編成は老朽化した 103 系岡山色(マスカット色)を置き換えるために登場、編成番号が飛んでいるのは、かつて B03・B04・B06 が在籍していたからである。なお、B03 は現広島 F06 編成、B04 は京都に返却、B06 は現広島 F05 編成である。B04 は京都 L05 編成であり、岡山 B 編成としての活躍は 2008 年 5 月から 9 月のわずか 4 ヶ月間だけで

あった。現役の3編成はいずれも2011年6月までに広島F編成と同様に湖西線で使用していた高速化(5000番台化)改造が解除され、車番の一番上に付されていた5が消され、原番復帰を遂げた。これは、もう今後湖西線を走らせる気がないという意味であると考えられ、近々このまま岡山区への転属となるのではないかと見込まれる。

☆B01 ←三原 Tc111-757 + M'112-774 + M113-774 + Tc111-707 岡山→



↑ 113系 B01



↑ 113系 B01



↑ 113系 B01



↑ 113系 B02



↑ 113系 B02



↑ 113系 B02

#### 4、車両運用

##### 4-1、広島地区の運用

115系は主に山陽本線で運用されている。ほぼ全ての列車が115系であり、朝夕には併結8連運用も数多く存在し簡単に長編成を見ることができる。三石・下関を最遠運用とし、日中の可部線・呉線にも数は少ないながら入線する。運用自体はC・N・L編成で区別されているが、運用範囲が広いので運行障害も多く、他の編成の運用を代走することはしばしばである。それどころか、代走を見ない日はほぼないくらいの勢いだ。113系は主に呉線で運用されているほか、朝は岩国や五日市始発の呉線直通列車が113系で運用される。朝の呉線直通列車は8連で運転されるため、8両全てが湘南色や瀬戸内色で揃う光景もまだ辛うじて見ることができる。ただし、これからは廃車ないし中国地域色化が進むと考えられるため今が最後のチャンスと言えるだろう。湘南色をまとうF06編成が9月に入場するため、何色で出場するかが注目される。なお、113系F15編成のみ毎日同じ独立固定運用(5923M~2623M、2624M、1972M)のみ入るので注意が必要。余談ではあるが、115系岡山⇄下関等の長距離運用にも広島支社は遠慮なく転換クロスを装備していないG編成などを投入してくるので覚悟のほどを。中でも真っ黄色張上げ屋根にもかかわらず車内が未更新セミクロスであるG2編成がやってきたときの絶望は形容しがたい。

##### 4-2、岡山区の運用

岡山地区では列車のおよ9割で115系を使用している。朝は最長で7連が見ることができ、1730M、1734M、1725Mでは広島車との併結も見ることができる。A編成は主に日中の岡山~姫路間で、D編成は主に日中の山陽・伯備線で活躍している。なかでも115系の特筆すべき運用はA編成の広島県内運用で、夕方の呉線では名撮影地・忠海を往くA編成などを見ることができる。ただし、オール300番台で唯一の4連湘南色であるA13編成は21日に入場が設定されている(9月12日現在)ため、出場の際には中国地域色に塗装変更される可能性がきわめて高い。D編成の300番台車(D22~D31)は他のD編成とは運用が区別されており、これらの編成が瀬戸大橋を渡ることは基本的にはない(=湘南色が瀬戸大橋を渡ることは基本的にない)。G編成は基本的に伯備線の北部で活躍しているため、日中は新見以北に行かないと殆ど見ることはできない。朝夕に山陽線に入る運用では多くがG編成を2編成併結した4連での運転となる。113系B編成は朝夕のみの運用で伯備線には入線しない。少ない運用ではあるが、その中でも山陽線2720Mは朝一番の上り快速サンライナーであり、まばゆい朝日の中轟音とともに95km/h走行する姿はまさに113系の華運用と言えよう。

#### 5、広島・岡山区の今後

率直に言えば、しばらくは安泰であると言えるだろう。京都や大阪を未だに113系がすまし顔で走っている現状からして、広島・岡山区の優先度はかなり低いと考えられる。それどころか、将来的に日根野区や京都区で余剰になった113系40Nでリニューアル未施工113/115

